

円満想続の3K「感謝・絆・供養」

月刊ニュースレター

想 続

Vol. 24 (2012年9月号)

発行：一般社団法人 日本想続協会

〒107-0052 東京都港区赤坂 4-1-1 SHIMA 赤坂ビル 5F

TEL 03-6454-1567 FAX 020-4664-9664

E-mail [info@n-sk.org](mailto:info@n-sk.org) (担当：内田)

☆定期購読（無料）のお申込は上記までどうぞ。

## 心の受信装置

想続塾塾長の内田麻由子です。今月は3つのお話をさせていただきます。

先日「徹子の部屋」で、生物学者の長沼毅先生が面白いことをおっしゃっていました。地球から遥か彼方に、地球によく似た環境の星があるそうです。長沼先生曰く、そこにはおそらくこんな生物がいるのではないかということです。

その星は空気が濃いので、くらげのような形をした生物がふわふわと宙をただよっています。目は頭の上に三つあります。そしてお互いに電波を送り合ってコミュニケーションをしています。電波ですから、思ったことが瞬時に周りの人に伝わってしまいます。ウソがつけられないんですね。本音と建前というものがない。

そうするとどうなるか。その星には争いというものがなく、とても平和な世界なのです。自分と他人の区別がないので、全体で一つの生命体を構成しているようなものだということです。

長沼先生のお話を聞いて、実に仏教的だなあと感じました。禅でいう「無我」の世界です。二人称・三人称はない、すべて「一人称」なのですね。心の受信装置を豊かにして、周りの人の電波をキャッチしようとするのが、平和な社会への第一歩であるように感じました。

☆ ～ ☆ ～ ☆

ペンギンの夫婦は文字通りおしどり夫婦で、一組の夫婦が一生添い遂げるそうです。江ノ島水族館のペンギン夫婦に、二羽のかわいい赤ちゃんが生まれました。夫婦はかわるがわる口移しで赤ちゃんたちに餌を与え、毎日一生懸命に力を合わせて子育てをしていました。

そんなある日のこと、夫ペンギンが突然死んでしまいました。すると未亡人（未亡鳥？）となった妻ペンギンは、食事ものどを通らなくなり、まったく餌を食べなくなってしまったのです。傍らでは、赤ちゃんペンギンたちが「ピーピー（おなかがすいたよー）」と鳴いています。

妻ペンギンが餌を食べなくなってから5日が経ちました。このままでは赤ちゃんたちの命も危ない。飼育員さんが心配そうに見守っています。すると赤ちゃんペンギンの鳴き声にはっと我に返ったお母さんペンギンは、再び餌を食べて赤ちゃんたちにも与え始めたのです。お母さんペンギンの表情には、これからシングル・マザーとして子供たちを立派に育てていくという決意が感じられました。（たぶん再婚はないと思うのですが…。）

☆ ～ ☆ ～ ☆

ギリシャ神話では、死と眠りは双子の神であるといわれています。死の神をタナトス、眠りの神をヒュプノスというそうです。一日を終えて眠りにつくときに、だんだんと意識が薄れていき、いつの間にか眠っていますね。もしかしたら死ぬときもこんな感じなのではないかと、先日ふと気づきました。もう話すことはできないけれど、家族が枕元で自分の名前を呼ぶ声はちゃんと聞こえています。そして心の中でみんなに「ありがとう」と言っているのです。

「人は生きてきたように死んでいく」といいます。人生を「ありがとう」で締めくくりたい。それには毎日を「ありがとう」で過ごすことが大切なのですね。